

令和4年度暫定評価の反映状況

評価結果	業務運営の改善への反映状況
<p>1. 中期目標で示した、各病院における病床利用率の目標値を達成するため、病床の適正管理に努められたい。</p>	<p>令和4年度は、各病院ともに依然 SARS-CoV-2(『新型コロナウイルス』という。)感染症の影響により感染症拡大以前と比べると病床稼働率については低い水準が続いている</p> <p>総合病院では新型コロナウイルス感染症及びVRE(バンコマイシン耐性腸球菌)の影響により、病棟の一部を感染症専門病棟・VRE専門病棟として運用した。これにより、新型コロナウイルス感染症患者等でない患者の入院が抑制されたため、令和4年度の一般病床稼働率は82.6%となり、目標値(90%以上)を下回っているが、重症感染症患者を多く受入れ、地域医療の維持に大きく貢献した。</p> <p>また、こころの医療センターでは新型コロナウイルス感染症患者受入のために個室病床を確保しているが、個室病床のニーズが高止まりする一方で4床室の受入れ調整が進まなかったこともあり、令和4年度の病床稼働率は78.5%と前年度実績及び目標値(85.0%以上)を下回った。</p> <p>こども病院では、患者数が増加に転じていること、令和2年度以降本格稼働した入退院支援センターを活用して効率的な病床運用をしており、令和4年度の病床稼働率は75.9%となり、目標値(75%以上)を上回った。</p> <p>今後、各病院とも院内感染対策を取りつつ、効率的な病床運営による平均在院日数の適正管理に努めるほか、近隣医療機関と連携して紹介率、逆紹介率を向上させることなどにより、病床稼働率の向上を図っていく。</p>

<p>2. こころの医療センターにおいて、リハビリテーション（デイケア）の利用者増加に向けて継続的に取り組まれない。</p>	<p>令和4年度のデイケアの実績は1,875件、病棟におけるリハビリテーション件数は3,897件となっている。4月から5月にかけては、新型コロナウイルスの新たな変異株の流行を受けてデイケア活動を全面停止した。6月からデイケア活動は昼食を跨がないショートケアを参加人数の上限を10人として再開し、11月下旬から昼食を提供しない形で昼休憩を挟んだデイケア活動を再開し、1月からは昼食を挟んでのデイケア活動再開したものの、以前の利用者の中には、当院での活動が中止されている間に他機関を利用している者もあり、前年度より増加したものの伸び悩んでいる。</p> <p>病棟におけるリハビリテーション活動も、感染対策を取りながらの実施となったため、件数が伸び悩んだ。</p> <p>令和5年度からは、新型コロナウイルス感染症がインフルエンザと同等の5類に変更されたこともあり、新型コロナウイルス感染症流行前の活動内容を再開出来る見込である。広報誌やホームページによるデイケア活動の周知に努め、患者数の増加を目指す。</p>
<p>3. こども病院のラーニングセンターについては、令和6年度の運用開始に向けて、引き続き対応されたい。</p>	<p>従来のラーニングセンターは、令和2年度以降の病棟工事や新型コロナ対策物品の保管場所となるなど使用できない期間が続いたことから、会議室や空き病室を利用した研修を実施してきた。</p> <p>ラーニングセンター再開に向け、令和3年度からワーキンググループで検討を行い、令和4年度にL棟3階の大会議室にラーニングセンター機能を付加することを決めた。</p> <p>今後、大会議室を中心に研修機能を集約したラーニングセンターを整備して医療従事者の研修環境の充実に取り組んでいく。</p>